令和６年度　学校評価計画　　【後期】

肯定的評価の回答割合

90%以上 … A
80%以上 … B
70%以上 … C
70%未満 … D

白山市立笠間中学校

重点目標			具体的な達成目標	現状	具体的実施計画	指標・評価の観点		集計結果			分析（成果と課題）及び改善策	担当			判定基準
									後期	前期					
1 組織的な学校運営	1	カリキュラム・マネジメントを組織的に行う。	全教職員が育成を目指す子どもの姿を明確に持ち，主任を中核に同じベクトルで学校教育活動に取り組むこと。	育成を目指す資質･能力を「主体的に学び，課題を解決する力」とすることを全教職員で共通理解する必要がある。	・研究部，生徒指導部，特別活動部と連携し，育成を目指す子どもの姿を実現するための取組や手立てを組織的に行っていく。	教職員	カリ・マネの柱「主体的に学び，課題を解決する力」を意識して，学校教育活動に取り組んでいる。	評価 a b 計	B 6% 82% 88%	A 22% 72% 94%	「主体的に学び，課題を解決する力」の育成に向けて，後期は学習・研究部による授業改善や生徒指導部による自己決定を取り入れた指導、特別活動部による学級活動の活性化を図る取組、また総合的な学習の時間における探求活動を行ってきた。全教職員で育成したい力を意識して学校教育活動に取り組めるよう、夏休みに再度共通理解を図ったが、教師のa評価が減少している。くり返し共通理解を図るとともに、学校教育活動全体で育成したい力をより具体的に設定するなどしていきたい。	教務主任（友田）	学習・研究部	教科部会	C・Dの時，教務部会及び主任会で再検討する。
	2	組織的で効率的な学校運営を推進する。	業務を効率的に進めるために，役割分担を明確化し，関係職員との連携を図る。	主任を中心とした組織的な学校運営を図るとともに，ICTを活用して効率的に連携を図っていく必要がある。	・主任会議等で取組内容や目的意識，状況を共有するとともに，各分掌の取組に活かす。 ・C4th等を活用して，予定や連絡などをこまめに確認し，関係職員との連携を図る。	教職員	役割分担を明確化し，関係職員と取組内容や目的意識を共有して連携を図っている。	評価 a b 計	B 28% 56% 83%	A 21% 79% 100%	教師の肯定的評価が減少している。２学期は行事等も多く、負担を感じている教員がいると予想される。一部に負担がかからないよう分掌内での分担は勿論、分掌を超えて分担したり、スリム化を図ったりしていくなど改善が必要である。また効率的に情報共有するために，校務支援システムやTeamsを引き続き活用していく。	教務主任（友田）	企画運営委員会	主任会議	C・Dの時，主任会議で再検討する。
2 確かな学力の形成	1	笠間学習スタイルを基に，主体性と課題解決力の育成を目指した校内研究を推進する。	テーマ設定や，解決・表現の手段や方法を生徒が自ら考え実践することを通して，主体的に学び，課題を解決する力を身に付けさせる。	学び合い活動やICTの活用，生徒が学んだことを自分で表現するための工夫などはなされているものの，教師主導の授業が全体的に多く，生徒に委ねる場面を増やすことが課題である。	・「課題の設定」「課題解決の方法」「表現の方法」等において，生徒が自ら考え，選択し，決定する場面を設ける。	生徒	授業に主体的に参加していると思う。	評価 a b 計	B 36% 50% 87%	B 37% 50% 87%	授業の中で，自己決定の場を設けていることが，生徒の実感にもつながっているのではないかと考えられる。教師のa評価は，前期の結果と比較すると増加している。「子ども主体」という捉えについて，特に，自己決定の場を設定することに今年度は重点を置いているということを再度確認し，授業づくりを進めてきた。教師，生徒ともに，a評価がさらに増加するよう，校内研究授業での教師間の学び合いや，効果的であった事例の共有などを進めていきたい。	研究主任（福田茜）	学習・研究部		C・Dの時，研究推進委員会で再検討する。
						教職員	生徒が主体的に授業に取り組めるよう工夫している。	評価 a b 計	A 24% 71% 94%	A 6% 89% 94%					
	2	課題解決に向けた自主的な学習習慣（家庭学習）の定着を図る。	自主的に家庭学習に取り組む習慣を身に付ける。	家庭学習時間が少ない傾向が感じられ，意欲的な生徒とそうでない生徒との二極化傾向である。	・家庭学習の強化を図る取り組みを定期的に行う。 ・テストの計画を生徒自身が考え，実行できるように支援する。	生　徒	平日に予習や復習，宿題などの家庭学習を行っている。	評価 a b 計	D 27% 40% 67%	C 18% 54% 71%	前期から継続して，宿題の見える化ということで教室内に宿題を書き込むスペースを設置したり，習慣化をうながすために学習時間を競う笠マラソンを団対抗でおこなったりしてきた。また，定期テスト前だけではなく，こまめにワーク類の提出日を設定する教科もある。しかし，生徒のアンケートからは，家庭学習の習慣が十分に身についているとは言えない。特に２年生の肯定的な回答が著しく低い。３学期は，高校入試に向けての学習も始まることをきっかけに，学習意欲を高め，学習習慣を身に付けさせていきたい。	研究主任（福田茜）	学習・研究部		C・Dの時，研究進路指導部会で再検討する。
						保護者	お子さんは，平日に予習や復習，宿題などの家庭学習を行っている。	評価 a b 計	D 12% 42% 53%	D 9% 47% 56%					
						教職員	家庭学習の大切さや具体的な学習方法について指導している。	評価 a b 計	B 29% 53% 82%	A 17% 78% 94%					
	3	将来への夢や目標を持ち，進路実現に向けた教育実践を図る。	自己実現を目指し，将来の夢や目標に向かって学習をしている。	１年次「職業講話」２年次「企業訪問」を実施している。自己の将来設計をしている生徒は，まだまだ少ない。	学活，総合などの時間を活用し，生徒が将来設計できる時間を確保し，現段階の自分の進路について考える。	生　徒	総合や学活の時間，懇談を通して，夢や目標に対して考えを広げようとしている。	評価 a b 計	B 33% 50% 83%	B 27% 55% 82%	前期に比べて，生徒の数値が6ポイント高い。 2年生では職業体験や進路コンパスを通して、働くことについてのイメージをもてた。また3年生では高校説明会や、進路決定を行うことを通して、自分の将来について深く考える生徒が増えた。3学期は、1年生で進路学習を行い、夢や目標に対する考えを深めさせたい。2年生では、高校調べを実施し，進路への意識を高めさせたい。保護者の肯定的評価が低い。学校での取り組みをＨＰや各種通信でお知らせし，各家庭で進路について話をする機会を持たせたい。	進路指導主事（浅見）	学習・研究部		C・Dの時，研究進路指導部会で再検討する。
						保護者	お子さんは，将来の目標や夢，興味関心のあることについて話している。	評価 a b 計	D 17% 46% 63%	D 13% 50% 63%					
						教職員	総合や学活の時間，懇談を通して，夢や目標に対して考えを広げられるように指導している。	評価 a b 計	B 47% 41% 88%	A 35% 59% 94%					
3 豊かな心の育成	1	学級経営の充実を図り，信頼に基づいたあたたかい人間関係作りを目指す。	言語活動の基盤となる学級で，穏やかで安心できる人間関係づくりを図る。	各学年，各学級で人間関係によるトラブルは減ってきているが，悩みを持った生徒も少なからずいる。	・構成的グループエンカウンターによる授業，授業での自己評価や相互評価，ＱＵアンケートを実施し，生徒の自己理解と相互理解を図れるようにする。 ・教員との定期的な懇談を実施する。	生徒	私は，学級や学年の中で認められていると思う。	評価 a b 計	C 26% 53% 79%	B 22% 58% 80%	月1回の生活アンケートの実施，QUアンケートの分析結果を学年や全体で共有し，組織的に解決を図り改善のための方策を検討した。今後も個人懇談の時間を確保しながら，安心して学校生活が送ることができるように，学級経営を基本とした教育活動を実践していく。	教育相談担当（北室）	生徒指導部	学年主任	C・Dの時，生徒指導部会（生徒活動部）で再検討する。
						教職員	授業や学級で生徒の自己肯定感が高まるような声かけや工夫を行っている。	評価 a b 計	B 47% 41% 88%	A 56% 39% 94%					
	2	道徳教育の充実を図り，向上心をもち，よりよい生き方について考える力を育成する。	道徳の授業を要として，授業や学校行事との関連性を活かしながら，向上心をもって自己を成長させ，よりよい生き方について考えさせる。	道徳の年間授業数は確保できている。また，各教科との関連性をふまえた年間計画が作成されている。	学校全体で重点項目の共通理解を図り，学年間で日常的に授業の共通実践を行う。	生徒	道徳の時間に考えたり他の意見を聞いたりしたことを，学校生活につなげられている。	評価 a b 計	A 30% 61% 90%	A 32% 60% 92%	生徒・教職員ともにアンケート結果の肯定的評価は高いと言える。ただ，前期と比べてa評価は減少した。今年度はICTサポーターやスクールカウンセラーをゲストティーチャーに招いての授業や大学教授による研究授業参観を実施することができ，いろいろな方が関わった道徳の授業を展開することができた。これらのことを継続し，生徒が色々な方から学べる機会を作っていくとともに，日常生活に結びつく授業を展開できるよう努めていきたい。	道徳教育推進教師（西田智）	学習・研究部		C・Dの時，研究推進委員会で再検討する。
						教職員	道徳の時間を年間指導計画に位置付けされた内容項目に基づき，指導を行っている。	評価 a b 計	B 18% 65% 82%	B 29% 59% 88%					

4 規範意識の育成・ 主体的な生徒活動	1	環境美化活動や奉仕活動を通して，情操教育の推進を図る。	日々の清掃活動に無言で黙々と取り組むことで，気づく力・我慢する力・感謝する心などの育成を図る。前期でab85%，後期でab90%以上を目指す。	無言清掃は徐々にできるようになってきた。気づいた所を隅々まで清掃している生徒がいる一方で，掃除に関係のない話をしている生徒もいる。	・清掃を縦割りで行う。 ・清掃を通してつけてほしい力や意義を全校集会で伝える。 ・美化委員会を中心に強化週間などを設ける取り組みを行う。	生徒	無言清掃を通して，「気づく力・我慢する力・感謝の心」などが少しずつ身についてきた。	評価 a b 計	B 31% 56% 87%	A 35% 55% 90%	abの合計が１年生は91%（前期比－3%），2年生は77%（前期比－8%），3年生は90%（前期比－1%）と全学年で評価が下がった。また，目標数値にしていた後期ab合計90%以上を達成することができなかった。評価が下がった要因としては，年度初めに全校集会で無言清掃の意義について話をし生徒と共有したが，その後はそういった機会を設けていなかった。今後は学期の始めに無言清掃の意義を共有したり，定期的に委員会などと協力したりして更なる向上に努めたい。	生徒指導主事（村松）	健康安全部		C・Dの時，健康安全部会で再検討する。
						教職員	担当の掃除場所に行き，無言清掃を通して「気づく力」等が身につくように指導している。	評価 a b 計	B 18% 65% 82%	B 26% 58% 84%					
	2	生徒会等の自治活動を推進し，学校行事や挨拶運動等の充実を図る。	学級や学年，生徒会活動において，主体的に活動する生徒の育成を図る。	生徒会執行部を中心に，委員会活動などの取り組みが活発になっている。すべての生徒が活動を自分事として認識し，取り組むよう働きかける。	・生徒会役員を中心に全校集会を運営したり，委員長を中心に専門委員会の活性化を図る。 ・生徒の意識向上を図るために，掲示や呼びかけを工夫する。	生徒	私は，学級や学年，生徒会活動において，主体的に活動していると思う。	評価 a b 計	B 29% 52% 81%	C 29% 51% 79%	生徒アンケートの結果はa+bが81%だった。2学期は行事が多く，3年生が主体的に活動する場面が多かったことが要因だと考えられる。(3年a+b87%) １，２年生で学級討議を取り入れたところ，学級内のルールの見直しにつながった。討議の回数を重ねることで，学級や学年の問題を自分事として捉えられていくのではないか。 各委員会委員長を事前立候補にし，委員長が主体となって新たな活動を企画するようにした。委員会の取り組みに変化が見られてきたが，まだ定着したとは言えず，2年ではa+bが７４％と低下している。 教職員アンケートのa評価は下がっているが，a＋bは100%だった。2学期の行事が影響していると考えられる。	生徒会担当（川橋）	特別活動部		C・Dの時，生徒指導部会で再検討する。
						教職員	学校教育活動の中で，生徒が主体的に活動する場を設けている。	評価 a b 計	A 24% 76% 100%	A 33% 61% 94%					
5 家庭・地域との連携	1	保護者や地域とより良い連携を行い，学校教育に取り組む。	HP・学校・学年・学級便りを通して，保護者や地域に学校教育活動の様子を発信する。	HPや各おたよりで学校生活を発信している。一方で，おたよりを家の人に見せていない生徒が複数いる。	・学校生活の様子や各おたよりを定期的にHPに発信する。	保護者	学校は，おたよりやHPを発信して，学校生活の様子を伝えている。	評価 a b 計	A 26% 67% 93%	A 17% 73% 90%	Tetoru配信で学校便りや学年便りを中心に電子媒体で積極的に配信を行ったことで，「c」評価から「b」評価へ、「b」評価から「a」評価へと保護者の意見が推移している。これからもTetoru配信を継続していく。また、生徒が保護者にプリントをしっかり渡していないというアンケート結果も出ているので、その部分については、生徒への声かけもこれからも続けて行く必要がある。	学年主任（村上）	主任会議	教務部会	C・Dの時，主任会議で再検討する。
						教職員	学校生活の様子を保護者や地域に伝えるために，おたよりやHPで発信している。	評価 a b 計	C 53% 18% 71%	B 50% 39% 89%					
	2	外部講師等，地域の人材を活用するとともに，同窓会との連携もはかり，開かれた学校づくりを推進する。	地域の人材および卒業生を講師として招聘したり，各種学校行事等を通じ，生徒の郷土愛を育む。	２年生の総合的な学習の時間における「土の子講座」や進路学習等で外部講師による講座を実施している。今年度は「職場体験」を数年ぶりに実施する。	・土の子講座や職業講話，職場体験では，地域人材を活用するとともに，生徒の希望に添えるような講座を開設する。 ・ジオ学習を推進する。 ・地域の行事への積極的な参加を促す。	生徒	私は，この地域（人・自然・文化）が好きである。	評価 a b 計	A 37% 53% 90%	A 40% 52% 92%	前後期とも肯定的評価が90%を超えA評価となった。後期は、フィールドワークや職場体験、国際理解教室などを実施し、人材の幅も更に広がっている。「部活動」でも地域との繋がりが増え、今後も関わりを大切にしていきたい。	学年主任（吉田）	主任会議	教務部会	C・Dの時，主任会議で再検討する。

学校運営協議会の意見	
学校運営協議会の評価を踏まえた改善点	